5年生が作った新聞です

浜坂南小新聞

はまさかみなみ

大好きな浜坂南小150周年

浜坂南小は、本年度で創立150周年を迎えた。これを機に５年生は総合的な学習の時間に同小の歴史調査や、校区内の調査、小学校のために自分たちができる取り組みなどを行った。

多くの歴史積み重ね

まずは、浜坂南小がどのように今の姿になったのか、これまでにどのような出来事があったのかを調べ、特に気になったものを年表にまとめた。

浜坂南小の歴史をさかのぼって調べてみると、こんなにも多くの歴史があり、少しずつ今の学校ができていったと思うと、歴史のある小学校であると思えた。また、昔の同小が今といろいろ変わっており、初めて知ったこともあった。浜坂南小の１５０年の歴史を他の学年にも知ってもらいたい。

（坂本貴人、田村丞次）

1876（明治９）年５月15日	小学校二日市校と合併
87（ 同20 ）年４月１日	大庭簡易小学校と改称
92（ 同25 ）年１月８日	大庭尋常小学校と改称
1914（大正３）年３月31日	大庭尋常高等小学校と改称
41（昭和16）年４月１日	村立大庭国民小学校と改称
47（ 同22 ）年10月１日	大庭村立大庭小学校と改称
54（ 同29 ）年10月１日	町村合併により浜坂町立大庭小学校へ
2017（平成29）年７月13日	ニュージーランド生徒との交流
11月26日	浜坂道路開通記念参加
24（令和６）年７月９日	ニュージーランド生徒との交流

大先輩 陰山さんに聞く

地図で今と昔の校舎の様子を比較する児童ら

今と異なる学校や生活

75年前の校舎配置に驚き

６月27日、浜坂南小の歴史をより詳しく知るため、本校の卒業生である陰山さんに話を伺った。陰山さんはおよそ75年前に浜坂南小の児童として在校していらっしゃった。

初めに私たち5年生が自己紹介をした時、陰山さんは苗字を聞いただけで全員の住む地区を的中させた。「何年も生きていたら、名前を聞いただけで大体どこの人なのかもわかっちゃう」と冗談交じりにおっしゃっていた。

話を聞いていくと、実は現在の校舎は１９８９（平成元）年に建てられたものであり、その前は、別の校舎が建っていたことが分かった。昔の校舎は現在のグラウンドの真ん中に位置しており、体育館は現在の校門の右側に位置していた。今の校舎は3階建てだが、昔は2階建てだったそうだ。変わっていたのは校舎だけではなく、学校の近くにある田君川には丸太橋がかかっていたという。今は鉄橋がかかっているので昔よりも安全になっているが、昔はその丸太橋を渡っていたという。

陰山さんに当時の話を聞く児童ら

また、陰山さんはさまざまな質問にも答えてくださった。授業時間は「昔は、1教科40分でした」との返答で、今より5分も短かったそうだ。陰山さんは75年前の暮らしの様子についてもお話しされた。その頃の遊びでは、めんこやケンケンパー、パチンコで玉を飛ばすなど、主に外で体を動かして遊ぶことが多かったそうだ。今、私たちはゲームを使って遊ぶことも少なくはないが、昔はそのようなものがなく、今と昔での遊び方にも大きな違いがあることが分かった。中学生になると木刀や弓を自分たちで作って遊んだり、ウナギを捕まえて飼育したりすることなども増えたそうだ。

さらに大きく異なっていたのが日常生活の様子だ。陰山さんたちが子どもの頃は、道路や宮の掃除、夜回り（火の用心）など、私たちがしたことのないことを日常的にされていたということが分かった。

実際に教室に来ていただき話を聞くことで、今とは生活の様子がずいぶんと異なることを身近に実感できた。特に、学校の形自体が昔とは異なっていたことに驚かされた。

（大田昌慶、小玉照護、西川一聖、浜田月美華）

未来につなぐ より良い学校に

玄関前の砂をきれいにする様子

今回、浜坂南小の歴史について学び、先輩たちが１５０年間守ってきてくださった浜坂南小を私たちも守っていかなければならないと思った。そのため、浜坂南小の環境を守り、さらに良くしていくという目的で、５年生は校内クリーン作戦を行った。

クリーン作戦では、まず、どこをどのように掃除するのかの話し合いをクラス内で行った。校庭のごみ拾いや、砂がたまって滑りやすかった玄関前の掃除をし、第1回目のクリーン作戦を終了した。

５年生が校内クリーン作戦

玄関前掃除で安全、すっきり

４年生に呼びかけを行う５年生

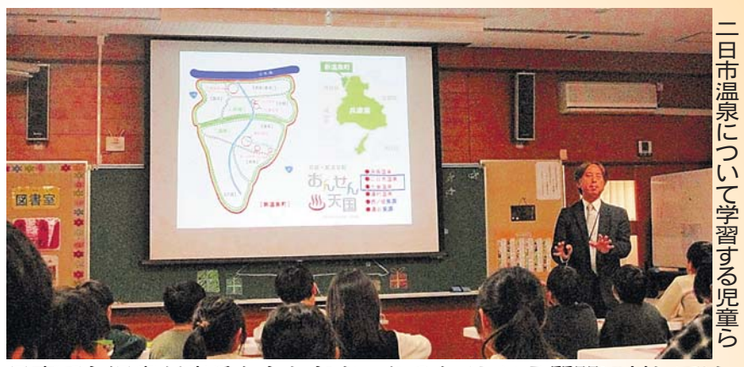
その結果、玄関前の掃除によって、多くの児童が滑っていた玄関前は以前より安全になった。また、ごみ拾いにより校庭や遊具側にときどき落ちていた空き缶やお菓子のごみも見つけることができた。

ほかにも、非常階段や体育館倉庫、体育館の2階なども掃除をしたい。現在私たちが行っている取り組みを6年生になっても続け、私たちが卒業した後もこの取り組みを在校生に受け継いで、２００年、２５０年と、私たちの大好きな浜坂南小を児童たち自身の手で守っていきたい。

（中島希維、藤田悠大、三島らん）

校区にあった！ 二日市温泉

医療・福祉施設４カ所で利用



二日市温泉について学習する児童ら

浜坂南小校区には有名な七釜温泉だけでなく、二日市温泉というものもあると聞き、私たち５年生は、その真実を確かめることにした。インターネットで調べてみると、確かに二日市温泉という温泉が出てきたが、あまり詳しくは記載されていない。そこで、二日市温泉について詳しく知るために、おんせん天国室の谷口さんと山根さんに話を伺うことにした。

二日市温泉の湯は七釜温泉とは違って公衆浴場や旅館、民宿ではなく、公立浜坂病院、ささゆり、デイサービス、特養はまさかの里の４カ所で使われている。源泉は1964（昭和39）年に見つかり、源泉の温度はおよそ50度だということも分かった。62（同37）年に七釜地区で源泉が見つかったことで、「それなら二日市でも温泉が出るかもしれない」と地面を掘ったら、予想通り温泉の源泉が見つかったそうだ。

「二日市温泉は人気があるのか」という質問に対しては、「人気があるかは分からないが、二日市温泉と同じような泉質の七釜温泉で、足の痛い人が温泉を使うことで痛みが和らいだという話を聞いたことがある」と谷口さんはおっしゃっていた。医療福祉施設で利用されているだけあってよい効能があるといいなと思った。また、「なぜ七釜温泉のように観光地にしなかったのか」という質問に対しては、「お客さんの取り合いにならないように、七釜温泉は観光地用、二日市温泉は医療福祉施設用として使い分けたのではないか」と答えてくださった。

今回、私たちは浜坂南小校区に二日市温泉という温泉があることを知って驚いた。また、福祉・医療のために温泉を使っていることにも驚いた。お年寄りや病院に入院している人たちのためを思って温泉が利用されているということに感動した。

（多田梨乃、橘愛莉）

学校概要

【学校名】新温泉町立浜坂南小学校
【所在地】兵庫県美方郡新温泉町栃谷４０２－３
【校長名】株本　和則
【児童数】59人
【校　訓】強く、賢く、美しく
【学校教育目標】ふるさとを愛し　こころ豊かで共に輝く　大庭ひたみちっ子の育成
～元気　やる気　思いやり～

【沿革】
１８７４（明治7）年に小学校栃谷校として開校し、１９４７（昭和22）年に大庭小学校に改称。２００４（平成16）年の旧浜坂町学校再編成で閉校し、浜坂南小学校に校名変更した。
19（令和元）年には、田君川の環境保全活動など、特色ある優れた実践が評価され兵庫県教育委員会よりグリーンスクール表彰を受ける。21（同3）年よりコミュニティスクール制度を導入。

編集後記

●これまでの浜坂南小を調べてみて、今と昔の学校の違いを知ることができました。昔の学校には、校舎と体育館がつながっているなどいろいろな違いがあり、驚きました。（大田昌慶）

●記事を打つのが大変でした。この新聞は、他の学年の人だけではなく、校外の人にも読んでもらいたいです。特に校舎の形が昔は違ったということを知ってもらいたいです。（小玉照護）

●ずっと前から浜坂南小の学校の名前や行事が変わっていてすごいと思いました。この新聞が完成したらどんな新聞になるのか読んでみたいです。（坂本貴人）

●新聞を初めて作りましたが、思っていたよりも文章を考えるのが大変でした。新聞を多くの人に読んでもらい、浜坂南小学校の歴史などをたくさん知ってほしいです。（多田梨乃）

●新聞を作ってみて、情報を得てから新聞にするまでが長くて新聞記者の方はこんなにも大変だということを知りました。読んでもらった人に、新温泉町の温泉の魅力に気づいてほしいです。（橘愛莉）

●歴史がたくさんあって文章にするのが大変だったけど、最後まで見ればこんなにもたくさんの歴史があることがすごいと思いました。昔の学校も楽しそうだと思ったので昔の学校生活もしてみたいです。（田村丞次）

●新聞を作ってみて、記事をタブレットで打つのが大変でした。

読んでもらう人には、南小の歴史や５年生の取り組みを知ってもらいたいです。（中島希維）

●浜坂南小の歴史など、いろいろなことを知れてうれしいし、驚きました。自分たちで調べていくのも楽しかったです。多くの人に浜坂南小に興味を持ってもらいたいです。（西川一聖）

●新聞を作る中で、今と昔の学校は形も配置も全然違うし、生徒数も違うけど、どっちもいいところが多いと思いました。私は、陰山さんの話を休んでいて聞けていなかったけれど、写真や資料だけでも昔の様子がよく伝わりました。（浜田月美華）

●新聞を作ってみて、記事を作るのが大変でした。できた新聞を読んでもらい、まだ知らない昔の南小を１年生から６年生に知ってもらいたいです。（藤田悠大）

●一人で文を考えたり、分かりやすいようまとめたりするのはすごく大変だったけど、最後まで自分で考えて書き終わった後の達成感がとても気持ちよかったです。また、この新聞を作る中で身につけたことを今後の学校生活でも生かしていきたいです。（三島らん）